

「家族に禁煙勧めて」

港北中「がん教育」 製鉄記念室蘭病院



がんは特別な病気ではありませんが、室蘭市港北中学校(笹森恭之校長、1771人)で22日、全校生徒を対象にしたがん教育が開かれ、

全校生徒を対象に行われたがん教育
最新のがん治療や予防法などについて理解を深めてい

た。

講師を務めた製鉄記念室蘭病院の前田征洋病院長は

「生涯でがんになるのは何人に1人の割合か」「日本で最も死亡数の多いがんは」などのクイズを交えながら日本のがんの現状を説明。「がんは2人に1人がかかる病気です。がんで亡くなる人は多いですが、治る人も年々増えています。早期検診が肝心です」「受動喫煙でも肺がんで死亡するリスクは2〜3割上昇します。家族に禁煙を勧めてください」などと訴えた。

胃がんの原因になるピロリ菌については、薬で除菌することで胃がんの危険度が低下すること、中学生で除菌すると胃がんをほぼ完全に予防できることを説明。家族にも検査を勧めるよう呼び掛けた。

がん教育は、小中学生に正しい知識を与えるための

室蘭市と市教委の連携事業で、室蘭市医師会が協力している。授業を受けた2年生の高柳颯汰さん(13)は「がんについて知らないことが多く、勉強になりました」と振り返っていた。

(北川誠)